



く別院だよりく

モダン寺新聞

第21号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011
神戸市中央区下山手通八丁目番号
TEL 078-341-5949

一口法話 「受け継ぐいのち」

しばらく前に、我が家に一組の方が訪ねてくれました。またまた私は不在でしたので連れ合いが対応してくれました。後でどのような用件で来られたのかを聞くと、「私の家庭で起こっている様々なことは、何代か前の先祖の影響だから拝ましてくれ」ということらしいのです。私はその事を聞いて少し悲しくなりました。

まず一つはどうして現状を人任せにするのかということです。現状を他者の責任にすると、今の私の責任が問えなくなってしまうと思います。そしてもう一つは、ご先祖を貶めているということです。

私たちは先祖からいくつかの大切なものを受けています。

一つは、いのち。私のいまのいのちは、多くの先に歩まれた方々によって支えられている、そんな大切なものです。

二つは、私たちの生活の隅々までしみわたっているものです。私たちの地域や国家を超えた世界中の先に歩まれた方々から環境や文化という大きな遺産を受け取り、活用して生活しているということです。

三つが歴史の教訓です。先人たちが行ってきたことは戦争や犯罪、現在に続く差別などの過ちもあります。しかし、そのような過ちも私たちは貴重な教訓として先祖から受け継いでいるのです。教訓だからこそ変えていく必要があるのです。このような教訓を学び、先祖から渡されたいのちや自然や文化を守り、育み、必要とあらばよりよきものにして跡に続く人に引き継ぐことが大切です。

いま生きている人々のいのちと人格を尊重し、互いにうやまい助け合つてこの世を生きることこそ先に歩まれた方々の恩に報いる生活ではないでしょうか。

親鸞聖人が「無量寿如来に帰命し」と正信偈の冒頭にたてられた思いは、無量のいのちにぬかずきながら日々の生活を送るのだというお誓いのことばでありましょう。

合掌

神姫組 光輪寺 棚原正智

第11回

「仏教 ここが知りたい」

あるご門徒さん宅に法事に行かせていただいた際、「お仏壇に水をお供えしないのはどうですか？」という質問を頂きました。そこで今回は、お仏壇とお水について紹介させていただきます。

華瓶とお水

お仏壇に、茶湯器やガラスコップを使って水を供えている方がいます。これはほとんどが習慣的なもののようで、「仏さまも喉が渴かれるのでしょう」と考えておられるのではないでしょうか。ある雑誌の仏事に関する記事には「仏さまが飲めるようにフタは取って供えます…」と書かれているようです。どうも水を供えるのは、「仏さまや故人の喉を満たすため」と思われているようです。

しかし、故人が往生された阿弥陀如来さまの「お浄土」には「八功德水」という特上のお水がふんだんに

にたえられてあり、私たちが水を差し上げる必要はないわけです。

また、「のどの渇きを潤すため」という行為は追善の意味合が濃く、阿弥陀さまのお心にはそいけません。ですから、浄土真宗では「仏さまに飲んでいただく」ような水の供え方はしないのです。と言っても「水そのものがいけない」というわけではありません。水は生活に欠かせない貴重な自然の恵みです。この水を阿弥陀さまのお恵みと味わい、生かされていることへの感謝からお供えするのなら、それは立派な報恩行でしょう。報恩の思いから水を供える為に浄土真宗では、華瓶（けびょう）という仏具を用います。お仏飯を供えるには仏飯器を用いるように、お水を供えるには華瓶を用いるわけです。華瓶一對に水を入れ、櫛（しきみ）または青木を差し（色花は用いない）、上卓に置きます。櫛を入れるのは香木だからで、香水として供えるのです。仏さまのお恵みを浄らかな香水にして供えるところに敬いと感謝の心が込められていると言えます。

なお、華瓶がなければあえて供える必要はなく、お茶も供えることはあります。

新輪番に川那部氏

この七月一日付けで本願寺神戸別院の輪番が変わりました。この紙面をもって新輪番のご挨拶をもうしあげます。



酷暑の季節となりました。

わたくし、このたび七月一日付けにて、井上博雄前輪番の後任を拝命いたしました川那部好晴と申します。浅学非才ではありますがよろしく願ひいたします。

本年1月9日に親鸞聖人七百五十回大遠忌についての消息が發布され、平成23年には大遠忌法要がお勤めされます。今年度は次世代の宗門を見据えた第一歩の歩みが始まりました。

今から44年前の昭和36年に七百回大遠忌のご法要がお勤まりになりました。そのご法要の御満座の御消息を機縁として浄土真宗はこれでいいのだろうかと思われつつ今日

までまいりました。しかし、人々の意識や社会情勢、経済の状況が大きく変化する中で、お寺にお参りして仏様のお話を聞く人がだんだんと少なくなつてまいりました。

真宗のお寺は、お念仏を喜ぶ人たちが仏様のお徳を讃嘆し、儀礼を執り行うとともに、私のいのちのありようをお法に問い聞いていく大切な道場として建てられたものであります。私たちは、このことを次の世代に伝えなければなりません。

モダン寺は、時代に応じた、若い人々も参画しやすい、聴聞の方法や機縁を積極的に考えていきたいと思ひます。

日頃の会話の中に「お寺でこんないいことがあったよ」「こんなことがあるから一緒に参拝しよう。」と僧侶、門信徒が共に考え、共に気兼ねなく会話の交わせるお寺にしたいものです。

井上氏本山へ

平成17年7月1日付けで本願寺神戸別院前輪番の井上博雄氏は本山宗務所・同朋部長として転任されました。

同氏は4年3ヶ月の間、この本願寺神戸別院に勤務されました。

◆◆◆◆◆ 神戸別院行事レポート ◆◆◆◆◆

モダン寺子ども会花まつり

桜がきれいに花咲く四月十六日（土）、別院本堂にて、お釈迦様の誕生をお祝いする「花まつり」が土曜子ども会を中心に行われました。

お勤めの後、尾井参勤のお話があり、引き続き、皆で灌仏（お釈迦様の誕生仏に甘茶をかける）をしました。

この花まつりでは、上級生が司会・進行をとめ、下級生をリードする姿が見られました。これからも下級生のよき見本としてリーダーシップを発揮していくてくれればと思います。これからも土曜子ども会に楽しいお友達が沢山集まり、子どもたちの活気で溢れるモダン寺にしていけたらと感じさせられました。



『降誕会法要』

平成十七年五月十五日（日）に、宗祖親鸞聖人の生誕をお祝いする「降誕会法要」が勤修されました。午後一時より別院前広場の親鸞聖人銅像前、引き続き三階本堂にてお勤めをいたしました。お参りに来られたご門徒さんと共に、「降誕会」をお迎えし、ご講師にお迎えした、多可組からきていただいた、川本法綱師のお話を聴聞させていただきました。

我々が今日、真実のみ教えに出会わせていただいていることは、親鸞聖人のご誕生があったからこそであります。宗祖親鸞聖人のご誕生をお祝いすると共に、親鸞聖人への感謝の気持ちを含めて行う法要が「降誕会」であります。

ちなみに、親鸞聖人の誕生日は旧暦では四月一日、新暦では五月二十一日です。

おもちつき

降誕会二日前の五月十二日（木）には、お供物のお餅をつくるため別院前の広場で「おもちつき」を行いました。

仏教婦人会の方々のご協力をいただき、あいにくの雨ではありましたが、楽しく過ごさせていただきました。今日では、スパーなどで販売されている物を買ったり、機械で簡単に作ったりと容易に手に入るお餅ですが、昔は、これほどの苦勞をしてやと口に運ぶことができたということを思うと、我々が日々感謝を忘れてしまっていることを、改めて気付かされた「おもちつき」になりました。

「永代経法要」

平成十七年六月十五・十六日、「永代経法要」が勤修されました。また、十五日の十一時三十分より永代経進納者をお迎えしての『永代経開闢法要』を勤修いたしました。別院本堂の左余間に法名軸を荘厳し、今は亡き先人のご遺徳を偲ぶと共に、滋賀教区栗田から来ていただいた、向井了暢師のご法話をお聴聞させていただきました。

永代経とは、永代に渡って、お寺の護持発展を願う法要であります。そして、先人からいただいた貴重なご縁として、仏法に出会わせていただく法要であります。

別院仏教婦人会研修旅行

五月二十七日（金）、神戸別院仏教婦人会研修旅行が開催されました。今年の研修先は姫路市でした。姫路駅から車で七分ほどの所にある本願寺派寺院・本徳寺を参拝させていただきました。ここは、本願寺第八代宗主・連如上人のお弟子さんの、空善さまによつて開かれた寺院です。古くから現代まで受け継がれてきたお念仏のみ教えの尊さ、また、み教えを私たちにまで伝えて下さった方々に対し、感謝の思いを新たにさせていただく旅行となりました。



別院仏教婦人会研修旅行集合写真

別院行事予定

八月

○モダン寺暁天講座

一・二・三日(月・火・水)

午前七時より

一日 神姫組 光輪寺

講師 棚原 正智 師

講題 「平等施一切」

二日 六粟組 教専寺

講師 大西 宝雲 師

講題 「その名号を聞く」

三日 赤穂北組 西光寺

講師 多田 満之 師

講題 「五濁の我等」

○第一土曜仏教講座

六日(土)

午後一時三十分より

講師 京都女子中学・高等学校教諭

小池 秀章 師

講題 「生きる意味と方向」

○孟蘭盆会

十五日(月)

午後一時三十分

講師 本願寺神戸別院 輪番

川那部 好晴 師

講題 「お盆をむかえて」

九月

○第一土曜仏教講座

三日(土)

午後一時三十分より

講師 神戸新聞編集委員

山崎 豊 師

講題 「今の兵庫家はどのような

にして誕生したのか」

○別院仏教婦人会定例法座

七日(水)

午後一時三十分より

講師 赤穂北組 浄蓮寺

増井 浄見 師

講題 「西方浄土へのいざない」

○別院常例法座

十五日(木)・十六日(金)

午後一時三十分より

講師 神戸湊組 宝球寺

鷲尾 衛鳳 師

講題 「聞くということ」

○春季彼岸会

二十二日(木)・二十四日(土)

午後一時三十分より

講師 未定

講題 未定

十月

○第一土曜仏教講座

一日(土)

午後一時三十分より

講師 NHK大阪放送局

アナウンサー
住田 功一 師

講題 「語り継ぎたい命の現場」

○別院仏教婦人会永代経法要

七日(金)

午後一時三十分より

講師 六粟組 妙福寺

宏林 教正 師

講題 「感じることを考えること
あじわうこと」

○別院常例法座

十五日(土)・十六日(日)

午後一時三十分より

講師 城崎組 本誓寺

堀川 宣裕 師

講題 「謙敬聞報行」

新任のご挨拶



森 弘 誓

この四月より、神戸別院に勤務
させて戴く事となりました。出身
は奈良県です。

まだまだわからない事ばかりで
すが、精一杯頑張ります。

別院へお越しの際は、どうぞお気
軽に声をお掛けください。

編集後記

モダン寺新聞第21号はいかがでし
たか？皆さんの率直なご意見を
聞かせください。今号より、私、森が
編集・担当させていただきますことにな
りました。

2面に書かせて頂いたような仏事
に関する質問等がございましたら
今後のモダン寺新聞で答えさせてい
ただこうと考えています。皆さんの
ご意見・ご感想を心よりお待ちしております。